

## ⑤創造の担い手育成

「創造の担い手育成」は、これまで紹介してきた創造都市の4つのプロジェクトを支える5つ目のプロジェクトであり、文字どおり、創造都市の取組を進める多様な担い手を育成するものである。このプロジェクトには大きく二つの目的がある。ひとつはアーティスト・クリエイターの発掘と育成、ひとつは文化芸術活動を担うアートNPOと言われるNPO等の育成である。

1 アーティスト・クリエイターの創造的活動の支援・発信

様々な分野の新進のアーティストを発掘・育成し、活動機会を提供するほか、制作過程の公開や公演等を通じ、文化芸術の裾野を拡げ、その取組を内外に発信している。

### ①オペラ未来プロジェクト

#### 横浜未来演劇人シアター

オペラや演劇で新進の芸術家を積極的に発掘、一流の講師陣により育成し、公演参加、海外オーディション派遣等の

機会を継続して提供するほか、練習過程や舞台づくり風景などを積極的に公開している。

(1)横浜オペラ未来プロジェクト(＝横浜OMP)は、平成17年から開始した、横浜みなとみらいホールが主催する事業である。

将来の可能性を秘めた若い音楽家たちを発掘し、国際レベルの指導のもとに育成・支援し、横浜を拠点に芸術創造活動を行う。芸術監督・指揮の村中大祐、そして芸術顧問・演出のミヒャエル・ハンペを中心に、若い音楽家たちに扉を広く開き、歌手、演奏家、演出助手、スタッフは公募オーディションによって選んでいる。さらに、優秀な歌手には海外の歌劇場等のオーディション参加機会が与えられる。そのほか、横浜OMPではオペラ上演だけではなく、アウトリーチ・プログラムやリハーサル等の公開、親子ワークショップ等を実施し、歌手2名がイタリア・トレヴィーゾ国際オペラコンクールに参加した。

が実施されている。具体的には平成19年度にオペラ「セヴィリアの理髪師」公演のほか、オーケストラ公開リハーサル、舞台づくり公開、親子ワークショップ等を実施し、歌手2名がイタリア・トレヴィーゾ国際オペラコンクールに参加した。

平成20年度は5月にオペラ「秘密の結婚」(写真1)を上演、平成21年度は7月に「フィガロの結婚」を予定している。

### ②横浜未来演劇人シアター

横浜からプロを目指す新進舞台芸術家を育成し、人と作品とを横浜から世界に向けて発信して行くことを目指している。指導には現在第一線の現場で活躍する演劇人があり、横浜から新たな舞台芸術を発信する。

稽古及びその製作過程を公開し、年間を通じたプログラムで育成、作り手同士の出会いや様々な現場への参加の機会を実践主義でつくりながら公演を行っているほか、全国、そして海外も視野に入れての発信を行い、横浜に若手演劇人の登竜門となる場を作るべ

く活動をしている。

平成19年度は「ハマのメリー」を題材に年間を通じて公演を実施した。

平成20年度は人材発掘等で実験的な試みを行いながら、様々な公演を実施している。

### ②横浜音楽空間

日時限定で、市内のオープンスペースで開催する観覧無料のコンサートイベントで、ミュージシャンに演奏の機会を作り、街全体の活性化に寄与することを目的としている。

実施にあたっては、地元商

執筆

齋藤 淳一  
山下 由美  
開港150周年・創造都市事業本部  
創造都市推進課担当係長



写真1 「秘密の結婚」チラシ

店街と連携・協力し、ミュージシャンの活動支援を行うとともに、街の賑わいづくりにもつなげていくこととしている。(写真2、3)

平成19年度は、イセザキモールで6・7・8・9月の全4回、パシフィコ横浜で11月、創造空間9001で11月の計6回開催した。

イセザキモールの第4回では、商店街協賛を得て人気投票や抽選会等を行い、地元の賑わいを演出した。

平成20年度はイセザキモールで7・8・9月の全3回、馬車道商店街で11月の計4回を予定している。

馬車道商店街は横浜トリエンナーレ開催に合わせて実施するほか、民間の音楽イベントと協働で実施することになっている。

## 2 アートNPO等の育成— 創造都市交流事業

アート活動、創造的活動を行うNPO等の担い手育成を目的に、海外の創造都市との交流事業を平成17年度から実施している。年度ごとにそれぞれ「創造都市との相互交流とネットワーク形成」(平成17年度)、「アートと教育」(平成18年度)、「中間支援機能」(平

成19年度)をテーマとしている。

### ① 創造都市交流2005

「ネットワークづくり」

(平成17年度)

「日本・EU市民交流年」事業の一環として、横浜市が日本側のまとめ役、ブリティッシュカウンシル(英国大使館文化部に相当)がEU側のまとめ役を担い、相互交流を行っている。国内からは、アートを通じて地域とかわりを持つNPO9団体とその団体が活動拠点を置く自治体、企業メセナ協議会等が参加し、ニューカッスル、ゲーツヘッド(英国)、マルセイユ(フランス)、フィスカラス(フィンランド)、ダブリン・バリマン地区(アイルランド)、ジェノヴァ(イタリア)、エッセン・ツォルフライイン(ドイツ)を訪問している。また、EU6か国からはアーティスト、行政関係者を迎え、国内のNPOが主体となって企画運営するワークショップを国内各都市で実施した後、シンポジウム「アートが都市社会の新しい地平を切り拓く—EU諸国の創造都市戦略を巡って」を横浜で開催している。

この大規模な交流事業により、海外都市とのネットワーク

クがはかられたとともに、国内都市間のネットワークが形成された。また、あわせて、都市内におけるNPOと行政の連携もはかることができたのである。

### ② 創造都市交流2006

「アートと教育」

(平成18年度)

テーマを教育にシフトし、ロンドン及び、英国をモデルに急速に文化政策を中心に創造都市の取組を進めているシンガポールを、国内のNPO等12団体(うち市内NPO5団体)が訪問し、アートと地域、アートと教育にかかわる活動を視察するとともに、両市からゲストを招き、「アートが開く学校・地域の未来」をテーマにシンポジウムを開催した。

テーマを絞った結果、教育関係者の参加も多く、アート、教育、コミュニティについて、極めて具体的な議論が行われた。

### ③ 創造都市交流2007

「中間支援団体」

(平成19年度)

「中間支援団体の活動と役割」をテーマに、市内で活動するNPO4団体が、クリエイティブシティの取組を積極

的に進めているオランダの阿姆斯特ダムとロッテルダム、ドイツのエッセンとフランクフルトを訪問した。なお、参加団体は、交流事業参加後のアクション・プランをもとに公募選考された団体である。

オランダにおけるNPO等の中間支援組織の活動や、行政・NPO・企業の協働による取組は顕著であることから、オランダ・モデルを視察後は、阿姆斯特ダムから行政関係者及びNPOの代表者を招き、市内におけるNPO活動を視察・助言していただいたうえで、シンポジウムを開催した。

ヨコハマで出会う、街と人を繋ぐ素敵な音楽たち。

期間限定のフリーライブスペース

# 横浜音楽空間

横浜音楽空間は、音楽演奏することの出来ない人達の多いオープンスペース(パシフィコ横浜)に独自の魅力を感じて音楽活動をする方と出会える場を創出。パシフィコ横浜の中心に、そこを結ぶ地元人々のネットワーク。誰もが気軽に楽しめる、魅力溢れる音楽環境を横浜音楽空間で創出する。

2008年度 出演者募集中

vol.1 7/26(土) イセザキ・モール 12St. 会場

vol.2 8/23(土) イセザキ・モール 12St. 会場

vol.3 9/20(土) イセザキ・モール 12St. 会場

vol.4 11/1(土) 馬車道会場

50組

http://www.arcship.jp/yok/

主催 横浜音楽空間実行委員会

協賛 NPO法人ARCSHIP 伊勢崎1-27 日本橋区東横田町1-1-1 (パシフィコ横浜) 横浜音楽空間 伊勢崎1-27 日本橋区東横田町1-1-1 (パシフィコ横浜) 伊勢崎1-27 日本橋区東横田町1-1-1 (パシフィコ横浜)



写真3 「横浜音楽空間」チラシ

写真2 横浜音楽空間

④創造都市交流事業の成果とは  
創造都市交流2007の「アクション・プラン」に象徴されるように、この創造都市交流事業の成果は、交流で得た経験とネットワークを活かした次の活動にかかっている。これまでの参加者のうち、主として横浜で活動する参加者にヒヤリング調査を行ったところ、過半の参加団体が帰国後、視察で得たノウハウ等を活用した自主的な活動を行っている。また、活動を行っていない団体も、今後の活動に向けた抱負を持ち、準備を進めている。

この文化対話会議は会議と称しているが、会議開催を目的とするのではなく、文化を核とする地域や国境を越えた多角的な交流を行うことで、文化政策による都市の発展をめざすゆるやかなネットワーク組織である。

行政の場合には、担当者の異動により人的なネットワークが弱くなることもあるが、NPOのメンバーは継続的に活動を行っていることから、今後に期待したいと思う。また、本市も必要に応じたサポートを行うとともに、本市事業の実施にあたっては、これらの団体との協働をはかっていきたい。

### 3 多様な主体の都市間ネットワークへ

#### ①日仏都市文化対話会議

2007年に、欧州のモデル的創造都市とも言えるナント市（注1）の提案により、

日本とフランスの自治体により設置された会議である。国内の参加都市は、新潟、金沢、横浜、フランスの参加都市はナント、リヨン、ランス、アミアン、トゥール、リールである。

2007年7月に開催された第1回会議では、参加都市の行政、NPO、教育機関等による文化都市政策や活動紹介を行うとともに、都市間連携の仕組、都市間の多角的な文化交流の可能性等について議論を行った。また、参加都市間の円滑かつ発展的な連携を確認・共有する「ナントの覚書」草案も作成している。

#### ②日仏都市文化対話の今後

文化政策を核とする交流は、今後は、都市間で多角的に、文化政策の担当者間、ディレクター、そしてアーティスト間の交流に進み、そのネットワークが更に分野を超えた人材、創造的活動の交換に進むことを参加都市は期待して

いる。（注2、写真4、5）  
会議参加都市は現在9都市ではあるが、第1回会議において、将来的な対象地域および対象都市の拡大について提案されている。アーティスト、行政担当者の文化政策を核とする交流は今後発展し、参加都市が経験を共有し、協力・協働することにより、グローバルな視野から都市課題に取り組むことになるであろう。

覚書は、2009年までの3か年について謳っているが、2010年以降の継続・発展については、この3か年の成果にかかっている。現在、この会議の日仏の代表都市はナント市と新潟市が担っているが、2009年はリヨン市と横浜市が代表都市を務めることとなっており、この会議の今後の展開に向けて横浜の果たす役割は重要である。

### 4 世界創造都市会議（仮称）

#### ①新たな創造都市像とネットワークを探る（開催を契機に）

2008年、2009年は、これまでのようなNPO等の派遣・受入は実施せず、国内・外の都市から参加者を横浜に迎え、「世界創造都市会議」（仮称）を開催する予定である。横浜市にとってこの会議

は、開港150周年を迎える2009年を契機とする創造都市の取組の推進に向け、これまでの創造都市の5年間の取組を検証するとともに、ネットワークの拡大をめざすものである。

また、会議では、これまで本市と交流のあった都市をはじめ、創造都市を標榜する都市が横浜に集い、様々な取組事例を共有するとともに、創造都市戦略について議論を行う。参加都市にとっても、新たな創造都市像を探るとともに、多様な主体間のネットワークを強化し、創造都市の取組のさらなる発展をはかる場としたいと考えている。

#### ②国内・外の参加都市

世界の創造都市とされる都市は、多数あり、多様である。これまで本市創造都市推進課が交流した都市だけでも、20都市近くにのぼる。また、世界の創造都市とはビルバオ、ナント、ポロニーヤのようなモデル的創造都市、ニューヨークのような産業クラスターの集合である文化創造都市、シンガポール、香港、ソウル、プサンのようなアジアを中心とする創造都市を政策目標に掲げる都市、リールを始めとする多数の欧州文化首

（注1）  
ナント市は、欧州におけるモデル的創造都市とも言える都市であり、80年代の造船業の衰退に伴う深刻な産業の空洞化、失業者の増大に対し、文化政策を柱に都市再生を果たし、「フランスで最も住みやすいまち」と評されるまでに至ったまちである。

（注2）  
会議終了後、2007年8月には会議に参加していたリール市代表の来訪を受け、急な坂スタジオ主催による講演会が市内で開催されている。また、翌2月にはナント市の文化顧問、都市計画家、美術学校校長、ジャーナリストの来訪を受け、「ナント・横浜日仏都市文化対話シンポジウム」を本市で開催した。その他、リヨンからパフォーミング・アーツグループ、リオン交響楽団の来訪もあり、フランスの都市との交流事業が盛んに行われている。



写真4 ナント・横浜日仏都市文化対話シンポジウム

都、上海、サンディエゴのように姉妹都市でもある都市など多数ある。(注3)

このなかで、会議に招聘できる都市には限りがあるものの、これまで交流を行ってきた都市や先進的創造都市といわれる都市はもとより、アジアの都市をはじめ、今後創造都市を標榜する国内外の都市とともに議論を行い、新たな活動に通じるネットワークづくりをはかりたい。

### ③ 多様な主体と

会議は、行政や研究者だけでなく、NPO等多様な主体が参画、参加する会議とする予定である。他団体にも共催を依頼するとともに、実施にあたっては、市内で活動するNPOやアーティスト、クリエイター等にも協力を依頼し、議場における議論だけではなく、多様な主体による様々なワークショップ、パフォーマンス、交流を含むものとしたと考えている。

また、この会議は開催期間だけの「イベント」ではない。2008年11月には、プレとなるシンポジウムを開催し、横浜のこれまでの創造都市の取組について、その成果と課題を検証し発信する。シンポジウム終了後2009年まで

の間には、参加者とともに課題解決に向けたワークショップ等のモデル的な取組を行い、2009年の会議の準備を進める予定である。

### 5 新たな芸術祭(仮)の開催に向けた検討

2007年に実施した、「YOKOHAMA PERFORMING ARTS COMPLEX (ヨコハマ・パフォーミングアーツ・コンプレックス)」には、リヨンから初来日したサーカスと大道芸を融合させたアーバン・オペラ「レ・ミューズ・ダイナモ(燃え上がる女神)」(写真6)など、日本そして世界が注目する最先端のストリートパフォーマンス・演劇・ダンスなど様々なパフォーミングアーツが横浜に集合した。みなどみらい地区や元町など都心臨海部を中心に10月から12月まで展開し、好評を博した。「クリエイティブシティ・ヨコハマ」を今まで以上に継続的に、かつ強力に発信していくため、こうしたパフォーミングアーツを中心とした新たな芸術祭を開催し、開港150周年を契機とした新たなクリエイティブシティのステップとすべく、詳細について検討中である。

### 6 今後の創造都市の担い手〜2009を契機に〜

創造都市・横浜のこれまでの取組は主として行政主導で進めてきたが、今後、更なる取組を進めるためには、多様な担い手による自主的な取組が不可欠である。

これまで横浜市は、担い手の発掘・育成や活動環境の整備等の支援を行ってきたが、今後は自主的な活動にむけて、ネットワークづくりへの支援や発表・発信の場を提供していく必要がある。

2009年の新たな芸術祭と国際会議が、こうした創造の担い手による活動を全市で推進する契機となるとともに、参加都市、参加アーティスト・クリエイターにとっても創造的活動と創造都市の取組を進めるうえで有意義なものとなるよう事業を企画・実施していきたい。

nant・横浜日仏都市文化対話シンポジウム  
建築・アートと都市空間の創造  
2008年2月27日(水) BankART Studio NYK  
シンポジウム 18:00-20:00(17:30開場) | 聴取料無料 20:00-21:00  
主催：横浜市(開港150周年・横浜都市発展本部、都市情報局)  
共催：横浜国立大学大学院/国際都市スクール「V-GSA」  
協賛：財団法人建設者振興財団  
◎定員：100名(注：定員に達しない場合は、◎申込方法：所属名、氏名(敬称省略)の組合せを参加申込書(記載欄)、履歴書、写真(縦向き)を添付し、Eメール (ts-ninate@city.yokohama.jp) でお申込ください。◎締切：2月26日(火)  
www.city.yokohama.jp/meikei/kaikou/souzou/project/bring/about.html  
参加費無料 | 11区4区通訳

【司会】  
ジャン・ルー・ボタン  
【モデレーター】  
ピエール・ジャン・ガルダン  
【パネリスト】  
ローラン・アリア  
【会場】  
BankART Studio NYK  
〒220-8588 横浜市西区みなとみらい1-1-1  
【申込】  
〒220-8588 横浜市西区みなとみらい1-1-1  
【問い合わせ】  
〒220-8588 横浜市西区みなとみらい1-1-1

クリエイティブシティ・ヨコハマ



写真6 「レ・ミューズ・ダイナモ」

写真5 「ナント・横浜日仏都市文化対話シンポジウム」チラシ

### (注3)

中牧弘充、佐々木雅幸、総合研究開発機構編  
「価値を創る都市へ―文化戦略と創造都市―」NTT出版、2008年  
端信行、中牧弘充、総合研究開発機構編  
「都市空間を創造する―越境時代の文化都市論―」日本経済評論社、2006年。他による。